考古学地理情報分析計画シート（20250703第1版）

氏名　福田啓太

タイトル　エジプト、テーベ・ネクロポリスにおけるグレコ・ローマン時代の墓利用とその分布

対象地域・範囲

エジプト、テーベ・ネクロポリス

時代・時期

新王国時代(1500 B.C.~1069 B.C.)、第3中間期(1069 B.C.~664 B.C.)、末期王朝時代(664 B.C.~332 B.C.)、プトレマイオス朝時代(332 B.C.~30 B.C.)、ローマ時代(30 B.C.~396 A.D.)

研究上の問い

新規の墓の造営が集中的に行われた新王国時代と第３中間期以降に見られる既存の墓の再利用について、どういった立地で、もともとどのような被葬者が埋葬されていた墓が好んで再利用されていたのだろうか？

データセット

・主な分析対象　墓の位置

・データソース

・Slinger, K. 2022 Tomb Families. Private tomb distribution in the New Kingdom Theban Necropolis.のAppendicesに収録された墓の位置情報

・データセット【Tellus公式】AW3D30から取得できるDEMデータ

ID　d8bbbc37-c8bb-43a7-9de0-35a77189df24　シーン名N25E032

・ナイル川の河川データ　GISCARTAホームページから取得

[https://map.giscarta.com/viewer/1fe551d3-e179-436d-8a37-ea192aedc3d7?\_gl=1\*adqi3f\*\_gcl\_au\*NDAxMjYxNTEuMTc1MTQ1OTgxMw](https://map.giscarta.com/viewer/1fe551d3-e179-436d-8a37-ea192aedc3d7?_gl=1*adqi3f*_gcl_au*NDAxMjYxNTEuMTc1MTQ1OTgxMw).. (2025/07/02)

・データ整形

位置情報を手動で取得

時代区分を共通化

複雑な称号等の整理と削除

手動で得られた墓の位置情報との結合

地理情報解析対象

・ラスタデータ　Tellus公式AW3D30のDEMデータ→標高データ取得のため

・ベクタデータ　なし

解析手法

・地理空間情報の取得

OpenStreetMapに以上のデータソースから得られた情報をプロットする。そこへ新たに末期王朝時代とプトレマイオス朝時代以降の墓を追加して、元々のデータへ結合させる。そしてDEMデータと点群データを重ね合わせ、それぞれの墓の標高を取得する。

　・ラスタ：プロセシング→ラスタ解析→ベクタレイヤにラスタ値を付加

　・ベクタ：新たな点のプロット→データ結合

・集計

属性テーブルを表示し、プトレマイオス朝以降に再利用された墓を明示する。新王国時代の墓の造営と合わせることで古代エジプトの土地利用の様相を明らかにする。

図化

・背景地図　地理院タイルのOpen Street Map

・重ね合わせ地理情報　DEMデータ

・図化

　・分布図　入力データのポイント表示、スケール表示

　・その他の解析図　密度分布図、ヒートマップなど